

質問

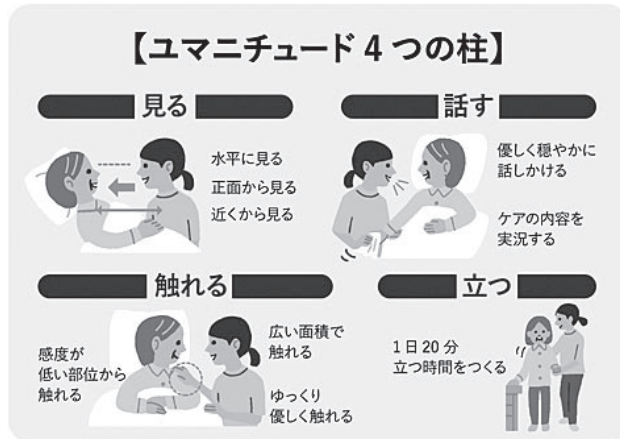
新しい認知症観の定着を

健康福祉課長

安心の生活体制づくりを図る



高橋 恵美子 議員



ユマニチュード4つの柱



保護者によりそう保育士（イメージ写真）

質問 認知症になっ

てもできること、やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間とつながり合いながら、自分らしく暮らし続けることができる環境が必要。現在行っている認知症サポーター講座でも、さらなる展開を。新しい認知症観を定着

させ、理解の取組みを強化すべきと考える。現状と課題は。

健康福祉課長 今年度より「認知症世界の歩き方」という体験型の教材を新たに導入し、認知症のある方の心身に起こる症状と生じる生活のしづらさを参加者の

皆さんが学べるよう取り組んでいる。幅広い年齢層の方に認知症に関する正しい理解を広めるために小中学校での研修会について検討を進めている。安心して生活できる体制づくりを図る。

質問 認知症の人の

尊厳ある暮らしを守る上で「あなたを大事に思っていること」について見る、話す、立つ、触れる4つの柱であるユマニチュードのケア技法がある。このユマニチュードの普及に取り組む考えは。

妊娠前の健康管理は

質問 思春期以降の

男女を対象に、将来の妊娠に備えた正しい知識や不妊、妊娠性や体の悩みに関する、女性のための健康相談窓口設置を。

その他の質問

保育ソーシャルワークの導入
保育士の働き方改革

提案

紙おむつの持参・持ち帰りの見直し
学校トイレに生理用品設置を

町長 女性のための健康相談窓口について、妊娠、出産、子育てのオンライン相談の実践に向けて準備を進めている。